

シリーズ「グローバル・ジャスティス」
第8回

グローバル・ジャスティスの可能性

国境の向こうにいる人々への義務を考える



伊藤 恭彦

名古屋市立大学大学院
人間文化研究科 教授

グローバル規模で生じている資本主義の構造的暴力という現実を前に、わたしたちは、新しい正義の概念を必要としています。『多元的世界の政治哲学—ジョン・ロールズと政治哲学の現代的復権』（有斐閣）はじめ、『ポスト・リベラリズムの対抗軸』（ナカニシヤ出版）など、現代の正義論を中心に研究され、2010年『貧困の放置は罪なのか—グローバルな正義とコスモポリタニズム』（人文書院）を新たに世に問うた伊藤教授と、既存の正義論の限界、グローバルな正義論の可能性について、みなで議論します。

同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科では、連続セミナー「グローバル・ジャスティス」を開催いたします。このセミナーは、現代世界が直面するさまざまな課題における「ジャスティス」の問題を、講師が自らの視点で語っていくものです。したがって、どのような視角で、何を問題としてジャスティスを論じるかは講師にゆだね、主催者は一切の方向性をあらかじめ規定いたしません。ジャスティス(正義)という言葉のもつ多義性や問題性もふくめて、多様な議論の場として提供していくものです。

日時： 1月 14日 (金)

18:30-20:00

会場： 博遠館 212 番教室

来聴歓迎・予約不要

同志社大学
グローバル・スタディーズ研究科

tel. 075-251-3930

e-mail. ji-gs@mail.doshisha.ac.jp